

文部科学省の支援事業「スーパーグローバル大学」に採択 「国際性豊かな

学術交流の母港」を目指す

関西学院大学

関西学院大学は今年で創立125周年。この記念すべき年に、文部科学省が公募した「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された。開学当初から国際性豊かな教育機関だったが、世界レベルの教育・研究を目指して、抜本的な大学改革を推進していくという。

文部科学省では国際競争力の高い大学の育成を目的とする重点支援施策「スーパーグローバル大学創成支援」を公募。2つのタイプに分けて審査を進めてきたが、このほどタイプB「グローバル化牽引型」に関西学院大学の構想が採択された。ちなみにタイプAは世界大学ランキング

グ100位以内を目指す「トップ型」で、16大学が申請して旧帝国大学を中心に13大学（うち私立は2大学のみ）を採択。一方、タイプBは93大学が申請したが、採択されたのは24大学と厳しい結果となった（関西の私立では2大学のみ）。

大学の教育改革が 真のねらい

それだけに「たとえ不採択になったとしても本学としてやり抜くべき構想を立案しましたが、評価の向上と財政支援が伴うだけに、やはり安堵と大きな喜びを感じます」と村田治学長は語る（以下同）。同大学はメソヂスト教会系（プロテスタント）の若き宣教師、ウォルター・R・ランバスが1889年に神戸に創立した小さな私塾をルーツとしている。そ

関西学院大学 「スーパーグローバル大学」 実現への取り組み

第1回（今号）
『構想概要』編
第2回（12/22号）
『国連・国際機関』編
第3回（12/29・1/5合併号）
『ダブルチャレンジ制度』編
をお送りします。

の後、ランバスは世界各地を巡って医療と伝道活動に生涯を捧げたことから、開学当初より国際性と社会貢献を大切にしてきた。2012年の文部科学省「グローバル人材育成推進事業」にも採択されているが、「今回の『スーパーグローバル大学』の中心的なテーマは、国際化もさることながら、大学と教育・研究の抜本的な改革なのです」という。

「具体的には、世界の大学とわたり合える世界標準の教育モデルの提案。本学では『ダブルチャレンジ制度』をコアとして、学生が国内外で自ら主体的に学び、タフな人材に成長できる新しい教育を推進します」

この構想の詳細を3回に分けて連載する。その第1回として、村田学長に全体的な概要を聞いた。

関西学院大学 「スーパーグローバル大学」 構想のポイント

- 1 全学生に課す「ダブルチャレンジ制度」
- 2 協定校への派遣学生数日本一
- 3 国連・国際機関等へのゲートウェイを創設
- 4 国際通用性のある質保証システムを構築
- 5 ガバナンス改革による総合的マネジメント実現

文／笠木 恵司（チーム・スパイラル）
撮影（人物）／山本 仁志（フォトスタジオヒラオカ）
デザイン／納富 進（スタジオトラミーケ） 企画協力／西岡 譲二（WAVE）
企画・制作／AERA AD セクション



関西学院大学

「スーパーグローバル大学」 実現への取り組み

第1回 構想概要 編

教育OSを刷新した 「ダブルチャレンジ制度」で、 国際協働できる世界市民を育成

オペレーティングシステム

関西学院大学の構想は「国際性豊かな学術交流の母港」

『グローバル・アカデミック・ポート』の構築」と題されている。

日本と海外の学生・教職員が頻繁に往来する母港になることを意味するが、

同時に「ダブルチャレンジ制度」を創設。

学問や国の垣根を越えた「アウェイチャレンジ」を通して、
多様な人々と主体的に国際協働できる、タフな「世界市民」を育成するという。

村田 治 学長

1955年東京生まれ。
1985年関西学院大学
大学院経済学研究科博士
課程後期課程単位取得
退学。関西学院大学
経済学部教授、学部長
などを経て、2014年から
現職。専門分野はマクロ
経済学、景気循環論。

欧米でも 大学改革が進行中

日本の社会も企業も急速に国際
化しており、大学のグローバル化
は時代の要請と思えるが、村田治
学長はもっと大きな背景があると
指摘する。

「大学進学率は50%を超え、学生
の質も変化してきたので、大学も
それに対応しなければならぬ。

欧米の大学も同じですが、すでに
教育改革に着手しており、それが
『スーパーグローバル大学創成支
援』の背景になっているのです」
ヨーロッパでは学位制度などを
統一化する「チューニング」が進
行中。アメリカの大学でも伝統的
なりベラルアーツを見直している。
世界の若者は留学生として流動性

を高めているため、こうした教育
改革が競争力につながると認識さ
れているのだ。

「日本でもそれに負けない教育モ
デルを提案して欲しいというのが
文部科学省の本当のねらいでしょ
う。海外に行く学生を増やせばい
いという単純なことではないので
す」(村田学長、以下同)

学際性と 国際性の融合を目指す

「『スーパーグローバル大学創成
支援』に提案する構想を練るうえ
で、関学の特長を見直してみまし
た。その中で出てきたのが197
0年代から実践してきた『学部
の垣根を越えた少人数教育』、そして
スクールモットーである『Mas
tery for Service』(奉

仕のための練達)に代表される『キ
リスト教主義に基づく全人教育』
です。これらは学生一人ひとりを
大切にする姿勢の表れであり、ま
さにキリスト教主義を精神的支柱
にしている関学ならではの特長
で、創立時から宣教師たちを中心
とする「国際性」を基盤として、
継承されてきたことなのです」

これを簡単にまとめれば、学部
間の垣根が低いという「学際性」と、
開学当初からの伝統である「国際
性」の2つということになる。

「グローバル社会で求められる人
材は、英語力に加えてキーコンピ
テンシー(核となる能力)が必要。
この2つの特長をうまく融合する
ことで、その能力を育成できな
いかと考え、今回の構想が生まれ
たのです」

構想の名称は「国際性豊かな学
術交流の母港『グローバル・アカ
デミック・ポート』の構築」。同大
学を日本と海外の学生や教職員が
頻繁に往来する「母港」として、
世界を駆けめぐり、競い合い、支
え合って協働できる「世界市民」
の育成を目標としている。

この「母港」を学生自身が主体
的に有効活用できる新しい制度が
「ダブルチャレンジ制度」であり、
教育OS(オペレーティング・シ
ステム)の刷新と表現している。
教育の基本的手法を、根本的に改
革したのである。

『グローバル・アカデミック・ポート』構想図

キーワード2
協定校への派遣学生数日本一

派遣 協定校へ約900人→約2,500人/年
受入 約900人→約1,500人/年
融合 受入留学生と日本人学生の交流・融合
プログラム拡充



3つの「アウェイ プログラム」から選択

この「ダブルチャレンジ制度」
では、学生は所属する学部の主専
攻の学びを「ホームチャレンジ」

ハンズオン・ラーニング・
プログラム(実践型学習)

「学校を出て、
実社会を経験する」

ボランティア活動、フィールドワーク、インターンシ
ップ、起業家育成プログラム、企業と共同の問題解
決型プログラム等を国内外で展開します。

キーワード4
国際通用性のある
質保証システムの構築

キーワード5
ガバナンス改革による
総合的マネジメント実現

として、もう1つの「アウェイチ
ャレンジ」を全員に課す(201
9年度新入生より)。
上の図のように、母国を出て世
界を知る「インターナショナルプ
ログラム」、所属学部以外の他分野
を学ぶ「副専攻プログラム」、学
校を出て実社会を経験する「ハン
ズオン・ラーニング・プログラ
ム」の3つが用意されており、学
生はこのうち1つ以上を選択して
取り組むわけだ。

2人に1人が留学

中でも「インターナショナルプ
ログラム」は、大学全体の飛躍的
な国際化がテーマだ。海外の協定
校に留学する学生数は年間で約
900人と全国第4位(日本学生
支援機構、平成24年度調査)だが、
これを2500人に増加して第1
位を目指す。学生2人に1人が在
学中に留学することになる。

その一方で、海外から毎年15
00人の留学生を受け入れ、日本
人学生と融合して学ぶプログラム
も設定。キャンパスの中にグロー
バルな教育環境を実現する。その
ための基盤整備として、クオータ
ー制(4学期制)の拡大、英語に
よる授業の拡大、英語教育の強化
などを推進していく予定だ。
「海外留学はあくまで選択肢の一
つ。国内でもグローバル人材に必

国連・国際機関への ルートも拡充

そのほかにも様々な提案が盛り
込まれているが、学生に直接的に
関係があり、注目を集めそうな
のは「国連・国際機関へのゲートウ
エイ創設」だろう。

「04年から国連ユースボランティア
を実施しており、政府と国連と
本学が三位一体となった『KGU
モデル』として国連の英語版資料
でも公式で紹介されています。こ
の実績をベースに、国際機関で活
躍する人材を送り出していきたい。

キャリアづくりまで含めて、包括
的に支援する体制を作ります」

具体的には、学部では副専攻に
「国連・外交プログラム」を新設
するほか、大学院でも研究科を横
断した共同プログラム「国連・外
交コース」を設置。さらに外務省
と連携してキャリア支援を行う
「関西学院大学国際機関人事セン
ター」を新たに立ち上げる。国連
に限らず、外交官や国際的なNG
Oを目指す学生にとって、同大学
は有力なルートになっていくに違
いない。

「本学は学生の自主的なチャレン
ジにこだわりを持ち続け、支援を
惜しむことはありません。それこ
そが新しい大学の姿を創成すると
信じているからです」



※文部科学省「学校基本調査」より

問い合わせ先:



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

☎0798-54-6017 (広報室)
www.kwansei.ac.jp/

※今回は12月22日号(12月15日発売)にて「国連・国際機関」編を掲載する予定です。